

あおぞら

発行:愛知県被災者支援センター

住所:名古屋市東区泉 1-13-34

名建協2階

TEL:052-971-2030

FAX:052-971-2050

開館:月曜～金曜 10時～17時



春を告げる菜の花は、渥美半島のボランティアのご協力で届けられた
(渥美半島観光ビューローより提供)
(※写真は同追悼式実行委員会より)

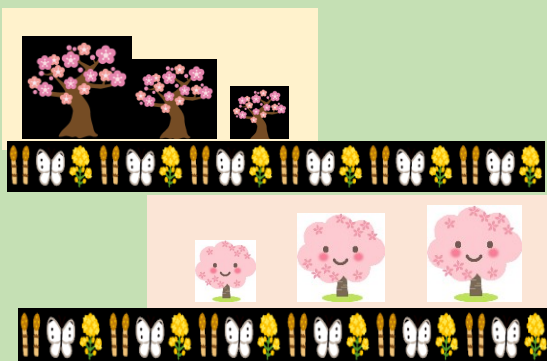
東日本大震災犠牲者追悼式 2025



降りしきる雨の追悼式会場で、参列者のとりどりの傘の波
(@名古屋市鶴舞公園・普選記念壇)

♪春はどこから♪

春は三寒四温、花粉症その他感染症など、
新年度、新学期に向けて、
体調管理にお気をつけください。



【2025年3月号156号】

もくじ

- P1. 表紙写真:東日本大震災犠牲者追悼式
- P2. 東日本大震災犠牲者追悼式@名古屋市鶴舞公園・普選記念壇
- P3～4. 交流会報告:あおぞらカフェ(@RSY)、ふくしま交流会(@豊橋)、あったか鍋パーティー(@田原市)
- P5. おすすめの一冊、さっちゃんのレシピ
- P6. 愛知県「災害ケースマネジメント研修」報告
- P7. 愛知県被災者支援センター2024年度活動報告
- P8. ウクライナ避難者の動き、編集後記

東日本大震災犠牲者追悼式 2025 年 3 月 11 日(火) @名古屋市鶴舞公園・普選記念壇

主催：東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや実行委員会

午後の部：14:30～15:00(黙とう 14:46)／夕方の部：17:30～18:00(黙とう 17:46)

東日本大震災から 14 年が経ち、一日雨の降る中、徐々に参列者が会場の名古屋市鶴舞公園・普選記念壇に集まって、合計約 400 名が参列しました。東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや実行委員会は、震災支援活動が続けている 11 の団体で構成していて、その一つである認定 NPO 法人レスキューストックヤード(愛知県被災者支援センター受託)のセンタースタッフも参加しています。

【午後の部】

13:00 から記帳・献花の受付を開始、14:30 追悼式典の開会、被災 3 県の知事のメッセージ読み上げ、14:46 参列者が発災時刻の黙とう、列席者等の献花、ゴスペルグループによる鎮魂歌、愛知県・名古屋市の両防災危機管理課の挨拶、追悼式実行委員会実行委員長による宣言と進み、広域避難者の皆さんや一般市民等が集い、犠牲者へ哀悼の意を捧げ、いったん閉会しました。

【夕方の部】

愛知県高校生フェスティバル実行委員会の生徒皆さんが学校帰りに集まり、17:30 に開会、17:46

黙とう、宣言を朗読し、共に「花は咲く」を歌って、震災を経験しない若い世代が震災を語り継ぎ、犠牲者・被災地に心を寄せました。

【参列された避難者の声】

- ・14 年経ってもあつという間で、あの日のことは忘れません。震災語り部やっています(M さん)
- ・今日は仕事帰りに来ました。まだ元気に仕事できて、ありがたいです(O さん)。
- ・こちらでは、喫茶店のモーニングがあって、楽しみで、あちこち行っています(N さん)
- ・今日は娘と 2 人で、自宅から歩いて来ました。娘も大きくなり、今度中学生になります(S さん)
- ・避難してきて、なんといっても仕事に恵まれたことが、幸せだと思っています(K さん)

互いにこの 14 年間の生活や近況を伝え合ったり、他にも大きな災害があちこちで続き、福島原発事故の廃炉や汚染土、処理水の問題は今後の大きな課題だと、不安な声も聞かれました。

(P8 【4 年目の あの人・この人】に続く)



【各地交流会報告】

① あおぞらカフェ「ハーブソルト作り」1/18(土)@RSY 事務所

久しぶりのあおぞらカフェで、4世帯4人の参加者でした。講師の鈴村さんも健康を回復され、久しぶりの顔合わせに一同大喜びでした。

アツアツの茹でたてジャガイモに、出来たハーブソルトを振りかけて試食、「普通のジャガイモが、とてもおいしい！」と大好評でした。

もう一品の、少々のおリーブオイルにハーブソルトを入れて混ぜ、食パントーストに塗って差し入れのトマトを乗せたら、これも「おいし〜い♥」シンプルな食材が大変身する、ハーブソルトの力に驚きでした。

そして「また参加したい」というお声がアンケートのあちこちに。

次回は「シナモンシュガー」がいいかも…？



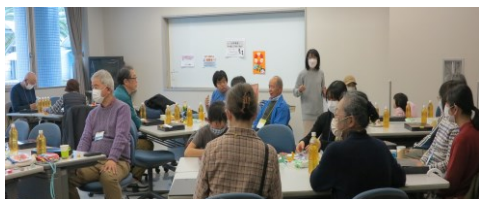
ハーブソルトの材料

バジル 3g、パセリ 2.5g、オレガ
ノ 2g、ガーリック 3g、ブラック
ペッパー 3g、スイートマジョラ
ム 2g、ローズマリー 1g、塩 20g



茹でジャガイモに振りかけて

② ふくしま交流会 2/2(日)@ライフポートとよはし・豊橋市勤労者会館

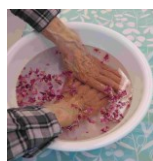


参加者:9世帯 19名(子ども3名)
久々に会うお子さんの成長に、参加者の皆さんもビックリ!!

甲状腺検査の順番を待つ人や終わった人など、「クラフト細工」や「手浴」で楽しめました。



甲状腺エコー検診



お楽しみコーナー:節分の豆まき・バラの花の手浴・クラフト細工の馬

小中学生の参加者は、クラフト細工で馬を9つ作り、机に並べて「来年の高校受験はこれでウマク(馬が9つで)行くぞ」と言っていました。

当日は節分で、豆まきをしたりして大人も子供も楽しみました。(ボランティア S)

<参加者アンケート>

- ・なかなか同県民の方と接する機会がなく、どうしているのかなと思っていましたが、会って、みんなの状況が分かり安心しました。
- ・自分が歳をとったことを感じました。久しぶりに顔を合わせることができて良かったです。
- ・休日に甲状腺エコー検診が出来て、ほんとうに

ありがたいです。

- ・久しぶりに懐かしい人と会えて、とても楽しい1日でした。これから年を取っていくにあたり、心配ごとともふえるのですが、先生に話を聞いていただけて少し安心しました。
- ・いろいろな方とお話できてよかったです。豆まきも楽しかったし、ごはんもおいしかったです。

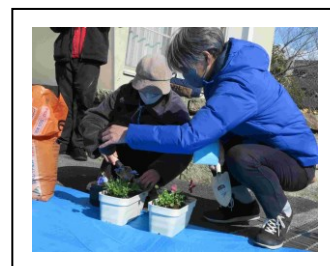
③ あったか鍋パーティー 2/22(日) @田原市福祉センター

愛知県の最南端で、菜の花も見ごろの田原市で、交流会「あったか鍋パーティー」が 2/22(日)に開催されました。主催は、田原市、田原市社協、コープあいち田原地域部会で、11 世帯 18 名(うち能登半島地震避難者 1 世帯 2 名)の参加者がありました。当日は寒波の襲来で、交通機関の乱れが心配でしたが、それぞれ無事に到着されました。



最初に、田原で育てられた四葉のクローバーやパンジーの苗で寄せ植えづくりを楽しみました。次は思い思いに、クラフト細工やそれぞれの近況報告などのおしゃべりの花が咲き、ストレスも発散できたよう。昼食には、田原の野菜たっぷりの“あったかお鍋”を始め、色鮮やかで新鮮なサラダバー、手作りのお芋のケーキなどのバイキング料理がテーブルを取り囲んでいました。それらのお持てなし料理をいただきながら、また楽しくおしゃべり。食事の後は恒例のビンゴゲームで、今は特に貴重な田原産の野菜セットを獲得し、大盛り上がりでした。

<参加者の感想を伺うと…> ●開始 30 分前に到着。「遠いので余裕をもって出かけて来た」。現在もパートの仕事をしていて、若い同僚たちに頼りにされている。寄せ植え四葉のクローバーは、「前の交流会でもらって植えたら、2 畳分に広がった。大切に育てる」と嬉しそう。 ●初めて妻と 2 人で参加。「妻の病気の再発はなく、以前ほど悪くはない」。自分の方は年を取って、見えにく



くなった。車を運転するので」と少し心配そう。親族のいる福島市には年 1 回は帰省している。 ●夫婦と長女、次男の 4 人で参加。手作りの食事、デザートはおいしく食べたが、みそ汁の「ふのりの産地は？」と小声で質問、回答に安どの様子。子どもたちは旺盛な食欲で、肉、野菜等をおかわり。長女はまもなく受験で、「これまでやってきたから、交流会に出たい気持ちを優先した」と語り、両親もニコニコと見守っていた。夫は仕事休みには植物や山のフィールドワークに。「好きなことをする時間を大事にしてもらうようにしている」と。 ●娘 2 人が今春に卒業し、社会人に。妻は「これで私たちの子育ても終わると思うと、感慨深い」。夫も「子どもの成長を振り返ると、自分が歳をとったことをあらためて感じる」と穏やかな表情で。

能登半島地震避難者交流会「じんのび能登カフェ」

3/1(土)12:00~15:00 @東別院

能登半島地震避難者の交流会が開かれ(主催:能登半島地震避難者支援ネットワークあいち)、参加者は 12 世帯 17 名。発災から 1 年 3 ヶ月。たくさんの課題が片付かず、先行きが不安な避難者の姿は、13、4 年前の東日本大震災の避難者の方々の状況と重なります。まだまだ避難者に寄り添い、支えが必要です。



石川県から状況説明



お楽しみ こけ玉作り

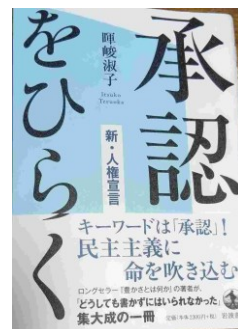


専門家による相談会

おすすめの一冊 『承認をひらく』（新・人権宣言）

暉峻淑子著（岩波書店）

（編集委員：瀧川裕康）



昨年末、日弁連の集まりが名古屋で開かれました。基調講演者の暉峻淑子さんが、96歳とご紹介されましたが、何とかくしゃくとして、その内容がまた素晴らしい。会場に暉峻さんの著書があり、すぐに購入し、その本の紹介です。

『承認』という言葉が難しいけど、言い換えると「人権」ということでしょう。たくさんのテーマが書かれていますが、私の心を打った一部を少しご紹介します。

【生活保護について】

生活保護は生存の最後の砦と言われています。「働いている者が食べられないのに、働かない者をなぜ食べさせなければならないのか」という、貧困者同士の対立をあおったり、親族ぐるみの自助を強制したりして、国民の「個人の尊厳」が侵されている状況です。支給額も人数も年々少なくなっています。憲法25条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する」とあります。生活保護、災害被災者支援など、無条件で支援をすることがとても重要だと思います。

【障害者との関わり】

ボランティアの人たちと一緒に仕事をするたびに、いつも私は言葉にならない大きな感銘を受け

ます。障害を持った人から認められ、信頼されることほど嬉しいことはありません。ウソのない信頼だから、やっと自分も一人前になったかなと思います。お互いに同じ人間として承認し合う。これが本来の社会のあり方でしょう。

【社会と生活の関わり】

NHKの2011年の調査「社会とのかかわり方」で、「決められたことには従い、世間に迷惑をかけないように心がけている」人が46%、「社会のために必要なことを考え、みんなと力を合わせ、世の中をよくするように心がけている」はわずか4%でした。でも、1995年阪神淡路大震災で138万人のボランティアが人道支援の活動に携わりました。私たちはまだ忘れていません。東日本大震災でも、能登半島地震でも同じ心掛けを大切にしたいと思います。

さっちゃんのレシピ

カレー味ライスサラダ(2人分)

【材料】米1.5カップ、ハム4枚、タマネギ1/2個、レーズン大さじ3、レタス適宜、油少々、カイワレ少々

【調味料】カレーパウダー大さじ1/2、塩小さじ1、コショウ少々、マヨネーズ大さじ2

【作り方】

- ① 米は、炊く30分前に洗い、少し固めに炊く
- ② タマネギは洗い、みじん切りにして油を引き、さっと炒める（辛みがとれる程度）
- ③ ハムは1cm角に切り、レーズンはぬるま湯で洗い、水分をふき取る
- ④ 炊き上がったご飯に②③を混ぜ、調味料で味を付ける
- ⑤ 大皿にレタスを敷き、中央に④を盛り、上にカイワレを散らす
- ⑥ レタスにご飯を乗せ、包んで食べる



「災害ケースマネジメント研修会」 1/31(金) @愛知県芸術文化センター・アートスペース

前号『あおぞら』(155号)でご紹介した愛知版・『災害ケースマネジメントの手引き』(認定NPO法人レスキューストックヤード2024年3月発行)等を参考テキストにした愛知県主催の災害ケースマネジメント研修会が、2025年1月31日(金)に愛知県芸術文化センター・アートスペースにて行われました。県内市町村の防災危機管理や福祉部門、社会福祉協議会の担当者等の関係者約130名超の参加があり、基調講演では「災害ケースマネジメント」についてのお話、また、能登半島地震の現地での取り組み、岡崎市防災課等からも報告がありました。

「災害ケースマネジメント」とは、「一人ひとりの被災者の状況を把握した上で、関係者が連携して、被災者に対するきめ細やかな支援を継続的に実施する取り組み」(中央防災会議「防災基本計画」令和5年)のことで、全国各地の災害時の経験をもとに『災害ケースマネジメントの手引き(内閣府)』を作成して、国も各自治体への普及を進めているものです。

研修会は右図のような内容で実施されました。東日本大震災で愛知に避難された方々への支援の経験や方法を今後の災害時に生かせるよう願って発行された冊子『愛知版・災害ケースマネジメントの手引き』が注目されるようになりました。

最後に、参加者が10名程度のグループに分かれ、いろいろなケースについてどのように対処していくとよいかを話し合い、課題ごとにまとめました。ワークショップでは、聞くだけでなく動いて意見を出していた、連携して違う情報を共有することで解決できる、お互いに議論するには時間が足りなかった、行政間の連携から民間とどう連携するか、福祉関係の参加者の問題意識が高かった、(愛知は)民間支援の蓄積があり着実に積み上げている、普段の関係がないと難しい等、様々な意見、感想が出されていました。

「災害ケースマネジメント」の考え方は、都道府県や市町村の地域防災計画に盛り込まれるようになりましたが、まだまだ試行錯誤で取り組んでいるのが実態で、今後の学びや情報共有が必要だと参加者は実感していました。愛知県被災者支援センター・パーソナルサポート支援チームで相談支援に関わられた専門職、また社会福祉協議会、行政と民間団体がどのように協働するのか、を継続して話し合っていかなければなりません。

「令和6年度災害ケースマネジメント研修会」<実施要項>

1 基調講演Ⅰ「多発する自然災害と災害ケースマネジメント」

講師：弁護士 津久井 進

2 基調講演Ⅱ「愛知版・災害ケースマネジメントの特徴」

講師：兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 青田 良介

3 ケーススタディ

- ・レスキューストックヤード 浦野 愛
- ・名古屋市社会福祉協議会 野川 祐史
- ・名古屋市社会福祉協議会 岡田 雅美
- ・能登半島地震避難者支援ネットワークあいち 森本 佳奈
- ・岡崎市防災課 内藤 あやの
- ・愛知県防災部長 岡田 晴道
- ・レスキューストックヤード 栗田 暢之

4 「災害ケースマネジメント(愛知版手引き)」のポイント

講師：地域と協同の研究センター 向井 忍

5 グループワーク

(内閣府・令和6年度災害ケースマネジメント実施体制整備に向けたモデル事業の一環で実施しています)

【愛知県被災者支援センター・2024 年度 活動のまとめ】

*2012～2020 年度分は省略

2024 年度は暫定

事業名	趣 旨 目 的	2011 年度	*	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
定期便の 発送	支援制度、交流会・相談 会、新聞スクラップ等の 情報提供	(月 2 回) 19 回		(隔月) 6 回	(隔月) 6 回	(隔月) 6 回	(隔月) 6 回
機関紙 「あおぞ ら」発行	紙面による避難者が必要 とする各種情報と交流の 提供	(月 2 回) 19 回		(隔月) 6 回	(隔月) 7 回	(隔月) 7 回	(隔月) 7 回
イベント 等同時開 催交流会	企業・団体による企画(舞 台等)同時開催の交流会	37 回		13 回	13 回	7 回	7 回
交流会	避難者同士や避難者と支 援者がつながり、思いを 共有する場の提供	28 回 延べ 1004 人		8 回 延べ 157 人	8 回 延べ 146 人	12 回 延べ 178 人	10 回 延べ 131 人
相談会	弁護士・臨床心理士など 専門家を交えた各種相談 対応、支援制度の説明等	16 回		2 回	1 回	2 回	1 回
生活支援 品提供	企業・団体等から寄贈さ れた生活物資の提供	1,871 点					
見守り活 動(個別 訪問等)	避難者の状況把握や孤立 防止のための個別訪問や 電話連絡等	複数頻度 (未カウ ント)		訪問 26 件	訪問 26 件	訪問 16 件	訪問 31 件
支援調整 会議	市町村や保健師、社協、 専門家等と連携した地域 での支援体制の構築	(未カウ ント)		12 回	12 回	12 回	12 回
市町村 訪問	避難者情報を共有し、市 町村と連携した地域での 支援の定着	複数頻度 (未カウ ント)		延べ 22 市 町村	延べ 40 市 町村	延べ 40 市 町村	延べ 32 市 町村
PS 支援 チーム	個別支援のための専門家 や支援組織等との協議や 勉強会などの実施	会議 18 回 勉強会開 催		会議 24 回	会議 14 回 セミナー 12 回	会議 12 回 セミナー 12 回	会議 12 回 セミナー 12 回
その他				相談件数: 154 件	相談件: 数: 145 件	相談件数: 153 件	相談件数: 150 件

『14年目の あの人・この人』 (P2 より続き)

○ (福島県南相馬市・小林友子さん)

避難先の豊田市から南相馬市小高区へ帰還し、JR 小高駅前で双葉屋旅館を再開されている小林友子さんは、仕事



の傍ら、環境中の放射能測定を続けておられます。先日お聞きしたところ、地図会社に測定データを持ち込み、道路上と 10 cm 外側の畔土上の測定結果を左右で対比できるように、汚染の度合いを地図

に色分けして、一目で解りやすく表示できるように打合せ、その土地でどのように暮らせるか、そのために放射能測定を続けていく、とのことでした。「歴史を忘れるなら、未来はありません」と。

○ (東京都在住・Y.Y さん)

「小学生だった息子が目標の大学に合格しました。自分で塾も探して受験勉強に取り組んでいました」とホッとされた様子。「名古屋の実家の母が亡くなり、今、家や荷物を片付けています」とのお話に、時の経過が実感されます。

ロシア軍のウクライナ侵攻から 3 年 「～ウクライナの平和を願うデモ～」

(あいち・なごやウクライナ避難者支援ネットワーク:事務局レスキューストックヤード)

2 月 24 日はロシアによるウクライナの戦争から 3 年目を迎えました。

一時停戦になるのかどうか、注目される状況ですが、爆撃で命が失われ、心身ともに傷つく子ども、市民…家を追われ、国内外に避難する人が数百万人も…。

パレスチナ・ガザにおいての戦闘もしかり。一刻も早い平和の訪れ、花咲き、鳥が歌う穏やかな春が迎えられる事を願いつつ…。

* JUCA よりお知らせ:「ジート移転」



〔JUCA(日本ウクライナ文化協会)の許可を得て HP より転載〕

ウクライナからの避難者が働くウクライナ料理レストラン「ジート」は、名駅・ウインクあいちから、4/3(木)より栄・マルエイギャラリーに移転します。

【編集後記】

- ・〈我が家の洗濯機はよくしゃべります〉先日、電源を ON にしたら「おはよう!今回のお洗濯は 4,000 回目です。丁寧に使ってくれてありがとうございます」と言いました。私は思わず「毎日の洗濯お疲れ様」と洗濯機に言いました。〈続〉実は今日は休みなので、洗濯機を ON にしたのが 10 時過ぎ。するといつもは「おはよう!」と言うのに、今日は「こんにちは!」って、しまった!寝坊したのを見抜かれてしまった!?(T.S)
- ・～季節めぐり激しい今年～今月は 今日が最後で 明日からは 3 月の春 梅から桜／3 月だ 弥生の初日 温かい 気温 20 度 晴れ間広がる／明日から しばらく寒い 冬が来る 名古屋は雨で 東北は雪(T.H)
- ・東日本大震災・福島原発事故からの避難生活の 14 年間は、それぞれ一人ひとり違うもので、その後の生き方の選択を問われる日々。当時の子どもたちは青年期を迎え、働く世代は高齢期に入りかける(T.K)